

第173回 IDT輪読シリーズ(3)

『インストラクショナルデザインとテクノロジー:教える技術の動向と課題』
第3章 インストラクショナルデザインとテクノロジー(IDT)の歴史

- 合田美子先生の資料が一覧できてよくわかります(歴史は2枚目です)。
- 鈴木克明先生の論文「教育メディア研究の温故知新」もあります。
- 20世紀の新しいメディア 映画・ラジオ・テレビ <教育の実践方法を変える期待→実際はそうでもなかった…>の繰り返し(教師・黒板・教科書はその他のメディアと区別されている(た?) 21世紀は?)
- IDモデル 第二次世界大戦・プログラム学習・行動目標・基準準拠テスト・ガニェ・形成的評価・IDモデルの変遷(~'70、'80、'90)、eラーニングとインフォーマルラーニング

歴史を学ぶのはなぜ? →背景(歴史)を知ると文脈ごと理解できて、応用が利くようになるんだろうなあ。



第173回 IDT輪読シリーズ(3)

『インストラクショナルデザインとテクノロジー:教える技術の動向と課題』 第3章 インストラクショナルデザインとテクノロジー(IDT)の歴史

p.28～:教授メディア(教授メディアは補足的なカリキュラム⇔教師・教科書は主要な手段/期待を持っては裏切られ…)

1900年代 学校博物館

1910年代 教育映画 「人間の知識のすべての分野は動画で教えることが可能になる！」(エジソン、1913)

1920年代～ ラジオ、音声録音、音声付き動画 経験の円錐(エドガー・デール、1946)

1940年代 第二次世界大戦 訓練映画・スライド教材 ⇒訓練の道具として非常に効果的
「メディアは重要であるが、その重要性はプロセスの次でしかない」(バーロ、1963)

1950年代 教育用テレビ(NHK Eテレは1959年)

～1980年代 コンピュータ CAI(コンピュータ支援型教育) ドリル・ワープロ学習など

→教師も教授メディアで手段の一つ/教師だけに教授メディアを選ばせない(ハイニック、1970)



第173回 IDT輪読シリーズ(3)

『インストラクショナルデザインとテクノロジー:教える技術の動向と課題』 第3章 インストラクショナルデザインとテクノロジー(IDT)の歴史

p.36～:教授メディア(教授メディアは補足的なカリキュラム⇔教師・教科書は主要な手段/期待を持っては裏切られ…)

2000年以降 コンピュータ・インターネット

○低コスト →軍隊、高等教育などの場で

○インタラクティブ →さまざまなタイプのフィードバック

→これまでのメディアよりも期待が持てる! ?



第173回 IDT輪読シリーズ(3)

『インストラクショナルデザインとテクノロジー:教える技術の動向と課題』 第3章 インストラクショナルデザインとテクノロジー(IDT)の歴史

p.39～: インストラクショナルデザイン(1960年代・1970年代に考案/eラーニングで新たな機会)

起源 第二次世界大戦

軍事訓練用教材 スクリーニング

1950年代 プログラム学習

スキナー (公文式と類似…)

1960年代 行動目標 などなど

達成すべき具体的な目標の特定 [期待される学習者の行動/行動が実行される際の条件/行動の合否を判断するための基準の説明] ブルーム

基準準拠テスト 前提条件と鳴る学習者の行動・学習者がどの程度行動を習得したか
ガニエ 学習成果の5つの領域・9教授事象

形成的評価 (開発時評価とか、形成時評価の方がわかりやすすくない?)

1970年代 システム的アプローチ

1980年代 ID実践はほとんど、あるいは最小限の影響…(p.46)

パフォーマンス向上に関心



第173回 IDT輪読シリーズ(3)

『インストラクショナルデザインとテクノロジー:教える技術の動向と課題』
第3章 インストラクショナルデザインとテクノロジー(IDT)の歴史

p.47☞: インストラクショナルデザイン(1960年代・1970年代に考案/eラーニングで
新たな機会)

2000年(前後)以降 オンライン学習 インストラクショナルデザイナーの役割大
インフォーマルな手法への活動が急増 ソーシャルメディアなど

→日本での状況は? そうだ! 熊大GSISがある!

